



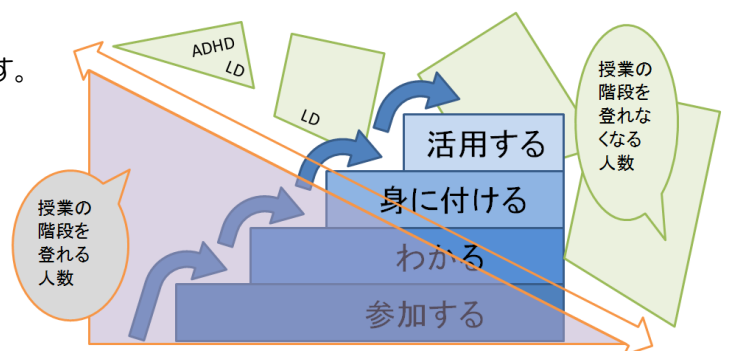
## 丹後教師塾『丹後特別支援教育研究会の取組』

丹後教育局では、丹後教育ランドデザイン中間目標C「丹後の教育を担う人材の育成」に基づき丹後特別支援教育研究会を平成23年度から立ち上げ、管内の特別支援教育の推進を図るとともに管内の特別支援教育を担う人材を育成することをねらいとして研究会を実施しています。研究員は特別支援教育関連の長期・短期研修経験者です。平成25年度は2つの研究グループに分かれて、校種間の移行をスムーズにする引き継ぎのためのシート（移行支援シート〈仮称〉）の研究とユニバーサルデザイン授業の研究を行いました。丹後教育局では研究会の協力を得て、発達障害を含むすべての子どもが学びやすい授業（ユニバーサルデザイン授業）の実践を広めることを目的にニュースを作成しました。ぜひご活用ください。

## ユニバーサルデザインの授業をめざして

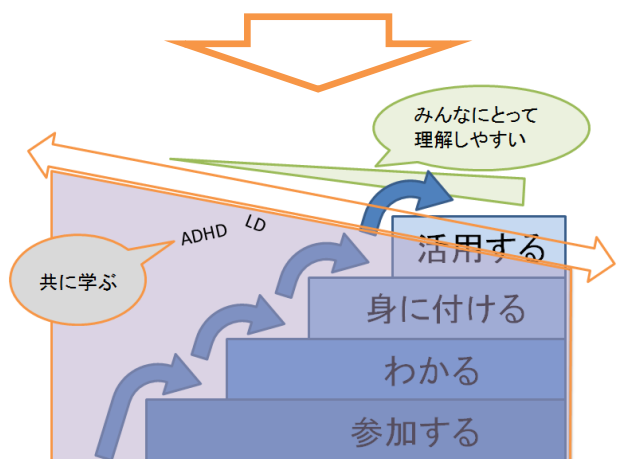
子どもたちは、毎日の学校生活の中で一生懸命に学習や学校行事などに取り組んでいます。また、私たち教職員も子どもたちに少しでも力を付けようと、授業など学校生活の様々な場面で悩みながら、教育活動に努力しています。しかし、教室の中にいる子どもたちの中には、**理解のスピードや学び方、感じ方などに違いがある子どもたちも多くいます。**（最近の調査では通常の学級の中に**発達障害等の可能性がある児童生徒の割合が6.5%**であると発表されています。）そのため、担任や教科指導の担当者がいろいろと工夫しながら授業を進めたつもりでも、思ったように効果があらわれないことがあります。近年、発達障害等の可能性のある児童生徒なども共に学ぶことができるよう、授業の中でできる配慮や工夫を大切にした授業が注目を集めています。このことが「**ユニバーサルデザイン授業**」と呼ばれ、**授業づくりに特別支援教育の視点を加味し、発達障害等のある児童生徒が学びやすいように授業を改善する、それが結果的に、すべての児童生徒にとって参加しやすく、わかりやすい授業になる**というものです。

- ▼ 授業内容の定着と活用という目標を階段で示す。
- ▼ 授業に参加するところからつまづく児童生徒もいる。
- ▼ **参加する** → **わかる** → **身に付ける**  
→ **活用する**ことがだんだん難しくなる。



### ユニバーサルデザイン授業 を行うことで

- ◎ 環境設定を行い、みんなが参加しやすくする。
- ◎ 授業の中での指導方法を工夫することでみんながわかりやすくする。
- ◎ 繰り返し取り組む工夫などを取り入れてみんなが身に付けられるようにする。
- ◎ 普段の生活でも活用できるような取組を取り入れることで活用が進むようにする。



※ 発達障害等の可能性がある児童生徒や、感じ方、理解のスピードに特徴がある児童生徒も共に学ぶことができ、みんなにわかりやすく、参加しやすい授業をめざす。

## ユニバーサルデザイン授業ヒント集

平成 26 年度年間5回の予定で、「ユニバーサルデザイン授業」を実践するためのヒントを、ワンポイント・アドバイスという形で発行していきたいと考えています。

4月	<p><b>小1プロブレム・中1ギャップについて</b>          保育所・幼稚園から小学校、小学校から中学校への移行期に、その大きな変化に対応できず、さまざまな形で不適応を示す児童生徒が増えてきています。移行期に見せる児童生徒の様子から、そのつまずきを小さくするために必要な支援の方法などについて紹介します。</p> <p><b>児童生徒のアセスメントについて</b>          教材研究と合わせて行うことが有効な児童生徒のアセスメントの視点について紹介します。学級アセスメントと気になる児童生徒のアセスメントを行い、授業の組み立て方や参加させるためのポイントなども紹介します。</p>
5月	<p><b>ユニバーサルデザイン授業とは</b>          ユニバーサルデザイン授業について、基本的な考え方や、その有効性などについて紹介します。また、授業規律づくりや授業の環境設定などについても心がけるべき内容について紹介します。</p> <p><b>定期テストについて</b>          小学校から中学校に入り、定期テストに向けてのテスト勉強にどのように取り組んでよいのかわからない生徒も多くいます。定期テスト作成にあたって気を付けることや、普段の授業で活用するワークシートのスタイルなど、誰が見てもわかりやすい書式について紹介します。</p>
8月	<p><b>読み書きのつまずきについて</b>          国語や英語の授業で、特に読み書きに課題のある児童生徒の様子や、その対応について紹介します。</p> <p><b>教科指導のヒント ～国語・英語編～</b>          国語や英語の授業で、読み書きに課題のある児童生徒もどのように共に学び、授業を進めていくことができるか、実践のヒントを小学校と中学校、それぞれの授業でのアドバイスを紹介します。</p>
11月	<p><b>数量的な理解のつまずき</b>          数の概念や量、単位などは、なかなか理解が難しく身に付きにくいものです。特に、算数・数学とかわかって児童生徒のつまずきの背景にある特性について紹介します。</p> <p><b>教科指導のヒント ～算数・数学編～</b>          算数・数学の授業で、理解につまずきやすいポイントと、授業の中で行える支援内容や配慮事項について、そのヒントを小学校と中学校それぞれの場面で紹介します。</p>
2月	<p><b>移行支援シート（仮称）の活用と支援の継続</b>          丹後特別支援教育研究会では、児童生徒の次の就学・進学の実行期に活用できる「移行支援シート（仮称）」について研究を進めています。「移行支援シート」とは、次の学校へと進学していく児童生徒について、有効な支援内容を引き継ぐものです。活用方法等を紹介します。</p> <p><b>移行期に取り組むべきこととポイントについて</b>          3学期後半を過ぎ、各校・園でも次の学校への引継ぎの準備が本格化する時期になります。確実に支援の引継ぎができることが、新学期のスタートをスムーズに切ることにつながります。移行支援のポイントや小1プロブレム、中1ギャップなどの課題について紹介します。</p>

授業づくりの基本は  
大きく変わらない

「ユニバーサルデザイン授業」という言葉に、何か新しいことをしなければいけないといった不安や抵抗を感じる先生方もおられますが、これまでから「どのように子どもたちにわかりやすい授業を行うのか」を常に考えながら教材研究や授業実践に取り組んできたことと基本は同じです。児童生徒の実態を分析し、どのような授業がより良いかを特別支援教育の視点を少し取り入れて検討するところから始まります。授業規律の確立や、児童生徒の興味・関心・意欲を引き出す動機付けなど、「すべての子どもがわかる・できる」授業づくりのために、教師自身が指導を振り返ることが大切です。ユニバーサルデザイン授業は、授業づくりではありますが、学級経営や環境整備などに支えられるところが大きいといえます。学校全体で授業のユニバーサル化に向けて意識改革を進めることも大切です。